

道徳科事例2

主題名 だれとでも分けへだてなく


第4学年 C-(12) 公正、公平、社会正義

1 ねらい

追体験から感じたことを交流する学習を通して、誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することの大切さに気づき、誰にでも同じように接しようとする心情を育てる。

2 教材名(出典) 「えっ、どうして」(学研「みんなの道徳 4年」)

3 学習指導過程

過程	学習活動と主な発問(○◎)	・予想される児童の発言	□指導上の留意点 ◆評価の視点(方法)
導入	1 本時の学習課題を設定する。 ○仲良くするために気を付けていることや大切にしていることはありますか。 ○では、「誰とでも」が付いたらどうですか。 ○誰とでも「誰」ってどんな人がいると思いますか。	・相手の気持ち。 ・自分から声をかける。  ・「誰とでも」は難しい。 ・声はかけづらい。 ・仲が良くない人。 ・一年生とか低学年。	□日頃の生活を振り返られるように、具体的な場面を想起させる。 □児童のつぶやきを拾いながら進めていく。
だれにでも同じようにせつするために大切なことを考えよう。			
展開	2 やってみよう(追体験) ○ポートボールの絵を見ながら、ボールを持っている男子、断られる子、もらえる子の役になって教材に載っている場面を体験してみましょう。 ○体験してみてどんな気持ちになりましたか。  ○どうして相手によってボールをパスしたり、しなかったりするのでしょうか。  3 誰にでも同じように接するためには何が大切なのかを考える。 ○人によって態度を変えることについてどう思いますか。  ◎誰にでも同じように接するために大切なことは何でしょう。	<div style="text-align: center;">  <p>ポイント①</p> </div> ・パスして。 ・やだよ。だめだよ。 ・いいよ。どうぞ。 ・悲しくなった。 ・うれしくなった。 ・嫌な気持ちになった。 <パスをしない相手> ・仲が良くない子だから。 ・あまり話をしない子だから。 <パスをする相手> ・試合に勝ちたいから。 ・いつも遊んでいるから。  ・いけないことだ。 ・仕方がない。  ・いろいろな友達と話をする。 ・相手によって態度を変えるのはいけないことだと教える。 ・好き嫌いをしない。	□体験しながら考える視点として「どのような思いでパスをしたか。」「パスをもらえたとき(もらえなかったとき)どのような気持ちか。」を与える。 □体験するだけではなく、やってみて感じたことや、見ていて考えたこと等を共有する。 ◆相手によって態度を変えてしまうことについて、人間の弱さも含め、様々な立場で考えているか。(ワークシート、発言)  □「仕方がない」という考えもあるからこそ葛藤することに気付かせる。 ◆好き嫌いとらわれずに人と接することの大切さを自分との関わりで考えているか。(ワークシート、発言、観察)
終末	4 本時の学習を振り返る。		

4 評価の視点

- ・相手によって態度を変えてしまうことについて、人間の弱さも含め、様々な立場で考えていたか。
- ・好き嫌いとらわれず人に接することの大切さを自分との関わりで考えていたか。

## ポイント① 道徳的行為に関する体験的な学習（追体験）

本時のねらいとして「追体験から感じたことを交流する学習を通して」と設定し、教材中の場面を実際に体験した。追体験することで、登場人物の気持ち等を感じたり考えたりしやすくなり、ねらいに迫るために有効だったと考える。しかし、その後の「感じたこと」や「考えたこと」の引き出し方の工夫が必要だった。他のグループとは違った台詞を言った児童もいたので、問い返していく中で真意を聞くようにすることも考えればよかった。

また、第三者の立場として、周りの見ている子供の気持ちを追体験から離れた場面で聞いたが、追体験の中で、周りで見ている児童として考えさせる工夫も考えられる。

## ポイント② 場面絵と吹き出しを使い、見えない心を可視化する



## 児童の学習状況及び道徳性に係る成長の様子

第1回	1 主題名 正直に生きる A-(2) 正直, 誠実
	2 教材名 「百点を十回取れば」(学研「みんなの道徳4年」)
3	ねらい うそをついたりごまかしたりしないで、正直にふるまうことの大切さを考えることを通して、明るく伸び伸びと生活しようとする判断力を育てる。
<役割演技>主人公の葛藤する気持ちを理解し、正直でいることの大切さに気付いていた。自分自身を偽ることは自分を苦しめることにつながり、明るい気持ちで生活していけないことを実感していた。	

第7回	1 主題名 深く思い合う友達 B-(9) 友情, 信頼
	2 教材名 「泣いた赤おに」(学研「みんなの道徳4年」)
3	ねらい 友達を思うことについて多面的・多角的に考えことを通して、友達と互いに信頼し合い、学び合って友情を深め合おうとする実践意欲を高める。
<ワークシートの記述>登場人物の関係や気持ちについて友達と考えを交流する中で、自分と友達との関わり方を振り返り、相手の気持ちを大切にしようという思いをもっていた。	

第11回	1 主題名 どちらが正しいのかな A-(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任
	2 教材名 「クラスたいこう全員リレー」(学研「みんなの道徳4年」)
3	ねらい 正しいと判断したことを行動に移す大切さに気付き、様々な学習や生活場面において主体的に判断し、それを実行していこうとする態度を養う。
<エピソード記録>友達からの多くの考えを聞く中で、主人公の行動が正しいかどうか様々な視点から考え、自分が正しいと判断したことは周囲に流されることなく自信をもって行動する大切さに気付いていた。	

登場人物の行動や判断について、自分の経験と重ね合わせながら考えられるようになった。友達の意見を聞く中で、考えを広げている様子も見られた。

「正直」をテーマにした学習では、友達との話し合いを通して、今までの自分の行動を見つめ直し、教材「百点を十回取れば」では、自分を偽らずに正直でいることの気持ちよさに気付いていた。